

# 平成29年度 事後事務事業評価シート

事業名	敬老会開催事業	担当課・グループ	作成者（職・氏名）
		町民福祉課 福祉グループ	主幹 中村 信宏

## 1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成28年度	事業主体	会計区分	予算科目		
	事業終了年度	平成37年度	町	1	3	1	3
事業の性質	3 法令に基づかない自主的事业			条例等の有無		無	
根拠法令・例規計画等	なし						
総合計画	基本目標	健やかで安心なあつま					
	基本施策	高齢者福祉・介護の充実					
	施策項目	介護予防・生きがづくりの推進					
	※総合戦略	人が輝くあつま・健やかで安心なあつまー高齢者福祉・介護の充実ーシルバー世代の社会参画					

## 2 事業概要 (Plan)

事業の目的	満80歳以上の高齢者の方を対象に、厚真町の発展に貢献された高齢者の労に感謝するとともに、長寿を祝福し併せて町民の敬老意識の高揚と、高齢者の福祉の増進を図ることを目的とする。
事業の内容 (手段・方法等)	対象者を招待した敬老会を福祉センターで実施する。 ・90歳以上の方に記念品を贈呈する。
対象	満80歳以上の高齢者
成果目標	高齢化社会において、厚真町の発展に貢献された高齢者の労に感謝するとともに、長寿を祝福し併せて町民の敬老意識の高揚と、高齢者の福祉の増進を図る。 参加が可能と予想される人口数（80歳以上人口ー施設入所一要介護3以上）を目標とする。

## 3 実施結果 (Do)

### ① 事業費

単位：千円

事業費の推移		26年度実績 (評価対象前々年度)	27年度実績 (評価対象前年度)	28年度実績 (評価対象年度)	29年度予算 (評価実施年度)	適用
総事業費		1,806	1,855	1,828	1,991	
事業費		1,461	1,510	1,483	1,646	
特定財源	国・道支出金					
	町債					
	その他					
一般財源		1,461	1,510	1,483	1,646	
人件費 (@4,000*時間数)		345	345	345	345	事務事業時間配分計算表(別紙)により算定
事業費の 主な内訳	報償費	160	173	149	218	・長寿祝者記念品 ・演芸謝礼
	需用費	1,139	1,174	1,168	1,255	・食糧費 ・酒類
	役務費	32	33	36	43	・郵送料
	使用料及び賃借料	130	130	130	130	・バス借上料

	計	1,461	1,510	1,483	1,646	
--	---	-------	-------	-------	-------	--

## ② 実績・成果

指標名称	26年度(実績) (評価対象前年度)		27年度(実績) (評価対象年度)		28年度(見込) (評価実施年度)		37年度 (目標年度)	
	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標 敬老会開催回数	目標	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
	実績	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
	達成度	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する								
主な成果指標 敬老会参加率	目標	482人	517人	577人				
	実績	295人	306人	303人				
	達成度	61%	59%	53%				
※数値化できない成果や指標の変更等について記載する ①80歳以上人口 ②参加人数 ③施設入所者数 ④要介護3以上		H26.9時点 ①588人 ②295人 ③87人 ④19人	H27.9時点 ①627人 ②306人 ③92人 ④18人	H28.9時点 ①678人 ②303人 ③88人 ④13人				

## 4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	長寿者に対し敬老会を開催することは、対象にとって励みとなり、町民の敬老意識の高揚に資する。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	町民の高齢者福祉に対する理解と関心を高め、高齢者福祉の増進につながる。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	B	長寿を祝うことが事業目的なので、概ね適正である。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

## 5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
理由	参加した高齢者が、町の発展に貢献したことに對する労いを感じていただくサービスは維持する必要がある。				
課題および改善提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者数が増加しており、総合福祉センター大集会室の収容人員が飽和状態である。</li> <li>27年-ブル×12人-来賓5人-施設職員14人=305人</li> <li>酒類の提供について事故のリスクも高まるため検討が必要である。</li> <li>・アルコールビールの提供 ・飲酒運転禁止のアナウンス及びチラシ配布 ・駐在所警察官による見送り</li> </ul>				

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

## 6 評価 (本欄は、理事者ヒアリング・内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください)

予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
意見	収容人員の飽和や、酒類提供のリスクといった課題があることから、イベントの内容の工夫を行うこと。				

## 7 外部評価委員会評価結果

予算	継続（現状維持）	サービス	継続（現状維持）	方向性	現状維持
附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントに子供を参加させるなど、参加者以外に敬老意識の高揚を図る取組を行うべき。</li> <li>・今後、人数が増加した場合、開催場所はあつまスタードームしか選択肢がないため、教育部局との調整を行うべき。</li> </ul>				
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標は参加率よりも、満足度等のアンケート結果の方が事業の目的に合致していないか。</li> <li>・参加者同士の交流（旧友等との再開）を楽しみにする参加者が多いことから、会場が手狭になっているという理由で、会場を分割して開催すべきではない。</li> </ul>				

### 評価に対する町の考え方

- ・町民の敬老意識の高揚が図られるような取組を検討します。
- ・スタードームでの開催については、床が土間体育館であることから衛生上の観点から困難です。
- ・成果指標については、参加率以外の満足度等の指標を検討します。
- ・参加者同士の交流という観点から、会場の分割開催は望ましいとは言えないため、1箇所で開催できるよう開催方法を検討していきます。